

新春文芸

新春に詠む短歌

何ごとも成さざりしわが一世かと心に沁みて宵のなかなか

荒木富美子

長く生きながら、何一つ成さぬ己れへの思いに聴く、短い生命を力の限り鳴きつくす秋の虫たちの一途なさまに心は沁み透って行った。

しゃぼん玉つぎつぎ放つ管の先ひとつはわれを写して重し

泉沢 浩志

幼い頃のしゃぼん玉遊びが郷愁をさそふ。大小のしゃぼん玉が次々と飛んで行く。自分の写るしゃぼん玉が一つ今も卒寿の心に残る。

朝はやく鳥はさえずり戯れる真綿のようなひかりの中を

井上 秀子

鳥達は朝が早い。私達人間も同じように朝を迎え一日が始まる。穏やかに過ごせますよう災害のない一年であることを願う。

尾根ふたつ謎めく説話抱く山筑波見ゆる地ふるさといわん

宇留野むつみ

筑波山は平安の代から人々と深く関わりつつ超然としている。親しみと厳しさをもつ神秘的な山を日常的に見られることを幸せに思う。

大振りの白梅活ける笠間やき瓶に鎮もる梅花の孤高

金丸 玉貴

土の香りがする様な瓶を陶芸の里笠間で求めてきた。大枝の白梅を活け、一輪二輪と開花するのを待っている。春を先駆け馥郁と香る。

わが街の花火大会も八十年期待の今年は日本晴れなり

菊地 公代

土浦の花火大会は神龍寺の秋元住職が霞ヶ浦航空隊の戦死者を慰めるため始められ今に至る。今年は好天に恵まれ多彩な花火を鑑賞した。

正月の花に活けたる葉牡丹をばらに似てると孫娘言う

酒寄 宏子

毎年正月に葉牡丹を活けています。白と薄紫の葉の重なりが、ばらの花びらのようだと言う小学生の孫娘。穏やかな一時である。

初筑波関八州を見はるかして今年も台風寄せ付けぬぞと

高井 昭

元日に見る筑波山は、関東平野を見下ろしている事を改めて感じた。今年も台風・竜巻など自然災難より見守って下さるよう祈願する。

なでしこの花添えられて市報来る水と緑に人きらめきて

荒井 洋子

回覧板に留めてお隣から市報になでしこが添えられていました。水と緑のみならず、人の優しさもきらめいて。

黎明に霞浦の汀の白鳥はたたみし首をもたげ飛翔す

櫻井 雅江

白鳥は、汀の蘆辺に長い首を後ろに巡らし羽に貌を埋めて休む。初日の出を察知し、首を擡げて飛翔する。千代の春を謳ぐかの様に。

新春に平和を祈る朝清し難病生かされ古稀の喜び

腰山 佑子

今年も又平穏に過ごせますように。我が身も「溶血性貧血」に悩まされつつも、無事に古稀を迎えることが出来て嬉しく思います。

ガラス窓にテールランプの紅き灯のほつと点りて子の戻りたる

佐藤 哲子

日も暮れて息子もそろそろ戻るであろうと思っていた時、子の車がバックで車庫に入って来た瞬間を歌にしてみました。

母と娘が歳女とふ友よりの賀状の未笑い全開

山口 あさ

期せずして母と娘が歳女と言つ重なるめでたさ。今年も友の家は盤石である。

新年の穂しきあけぼの常なるに心あらため立志を書かん

三浦清次郎

二〇一五年の始まりです。自分でも驚くような抱負を持つてはありませぬか。

朝光をきらめき揺らす桜川寿ぐ春に吉兆のきざし

和氣 明美

のどかに流れる桜川に桜咲き、面に浮かべる花筏は今年も人々の心を幸にしてくれるでしょう。

闇に点る小さき明りのやさしかり「高田の鉄橋」新駅成りて

平澤 良子

勝田から阿字ヶ浦まで行くローカル鉄道に新駅ができた。むろん無人駅だが明かりがあるだけで、安心感があるものだ。

新春に詠む俳句

元日やまずは神との対話から

「あけましておめでと〜」と家族で新しい年を迎えるが、神棚には一番にあいさつ。この年の平和と発展を願う。家族の健康と共に。

一月の真ん中に在す双つ嶺

幼少時より慣れ親しんだ筑波山は心のふるさとである。神々に見守られて新しい年がスタートする。さあ！今年も元気に頑張ろう。

鳶職や空は古式に出初め式

江戸の頃からまじの纏まとが出て、梯子はしご乗りや木遣きぢ節ぶしなど古式ゆかしい行事は、いかにもお正月らしい光景で目を見張る。安全祈願を込めて。

ひとすじの浦の光や初筑波

初日が霞ヶ浦の蓮を染め、一筋の光となり届く。その彼方には初筑波がくつきりと。何とも淑しゆく氣きに満ちた光景。人の心も引き締まる。

携帯にカタカナ並ぶ年賀かな

携帯電話に「ハッピーニューイヤー」の年賀メール。多様化の時代。それでも「絆」の年一回の便りは、生きている元氣の証。目出度し。

初日待つ霞浦に小舟のよぎりおり

御来光を待つ富士見塚古墳頂上。眼下には霞ヶ浦の静寂が広がる。明るんできた東雲の空。一艘の小舟が水尾を引いて行く。絵の様に。

初風の糸の手応へ子に渡す

国民宿舎水郷の跡地。高い樹の枝に、糸の切れた凧が泳いでいる。霞ヶ浦の波は荒い。凧が風に馴染んだところで、凧糸を子に渡す。

朝拜あさうはいの人出迎える駿馬しゅんまかな

新年の言ことば祝いわぎが明るくはすむ中、着飾った駿馬との出逢いは、大和まほろに居る幸せを感じる。平和な日本の年明けである。

加藤 節子

狩谷 諭

小池 陽子

関沢 美江

高田 智子

沼尻 芳子

根本 晴市

古橋 初子

新春に詠む川柳

願い事一つと決めて鈴を振る

年を取ると欲深くなる。賽銭の額にしては、あれもこれもと浮かんできてる。今年は一つ家内安全にする。

注連飾りリースに代えて新世帯

新世帯の初めてのお正月です。ドアの飾りも可愛らしく、ご両親や友人も微笑ましく見守っています。

初日の出霞ヶ浦を輝かせ

霞ヶ浦総合公園から見た初日の出は美しく、やがて湖面全体を明るく照らし、明るい一年を寿ぐかのように感じられました。

だるま市なじみの顔に会い安堵

今年も、同じだるま名産品を買って初詣でに向かいます。笑顔が嬉しい年始めです。

今年こそ何時も叶わぬ願い事

今年こそこう云う一年にしたいと念じながら新春を迎えるが、意志が弱いせいもあり叶わず、今年も同じ願い事をしている自分。

元旦は夫に任せる台所

誰よりも早起きして、御節の用意をする夫。新婚時代からの習慣です。

生きている証しをこめて年賀状

米寿近くになると知友の大半は鬼籍おにせきとなつている。また川柳せうりゅうを作句できるのは有難いこと。残友と残日を楽しみたく賀状を認める。

迎春は家族でかこむ福笑い

ふだんは、あまり寄り付かない孫達もお正月には必ずやってくる。福笑いゲームで家族が笑い合つ至福の一時である。

太田 鳴子

長井まさこ

後藤 建坊

須藤 桜花

富田こうし

山口 笑花

田邊 余市

永井 花菜